

上海・東京グローバル コンファレンス

Shanghai / Tokyo Global Conference

2010上海大会 広告特集

万博を機に考える 今後の都市像

世界経済再生のけん引役として、東アジアの重要性が高まっている。その中でも中核となる中国と日本において、先進的で知識産業化された経済社会を実現するために、上海と東京の国際都市として目指す方向が注目を集める。そんな中、「上海・東京グローバルコンファレンス」2010上海大会が、上海環球金融中心(SWFCフォーラム)で開催された。上海万博が開幕し活気あふれる上海の地で、2つの国際都市が抱える様々な課題とその解決策について、日中の著名な経済・学識関係者たちが議論を交えた。

企画・制作=日本経済新聞社クロスメディア営業局

主催者あいさつ

復旦大学日本研究センター 主任
郭 定平氏



シンポジウムを開催し、多くの成果を得た。上海万博開催時に開かれる本コンファレンスでは、都市問題に関して中日両国の最先端の知識が共有されるだろう。万博の成功と両国の成長に寄与する提言を期待した。

来賓あいさつ

トヨタ自動車 相談役
奥田 碩氏



現在開催中の上海万博はより良い都市、より良い生活」をテーマに掲げている。それを受け本コンファレンスでは、「都市の抱える課題をいかに克服し理想の都市像を描いていくか」という点で活発な議論を期待したい。

東京と上海が理想の都市を目指す上で、お互いの連携や切磋琢磨(せつさく)を促す必要がある。日中間で首脳交流が活発に行われ戦略的互惠関係が進んでいるが、産業界やメディア、文化などあらゆる分野での交流が相互理解を深めると考える。本コンファレンスや上海万博によって各分野の交流が二層促進されることを期待している。

アジアでいち早く国際的な近代化を成功させた日本の経験から中国が学ぶべき点は多く、これまでの上海の発展や今回の万博開催にあたっては日本の知恵

を活用してきた。例えば復旦大学日本研究センターは愛知万博の折各分野の日本の関係者に参加してもらい「万博と国際大都市の発展」をテーマに

また、学生間の交流は中日関係の未来の礎となる非常に重要なテーマである。本コンファレンスではそうした面での成果も期待している。

「都市」から「メガリージョン」へ

都市機能の範囲をさらに広げ メガリージョンとして発展を

産業は知識集約へ 都市の競争は激化

世界経済を支える産業が知識集約型にシフトし、その産業の多くを抱える都市間の競争が激化している。都市機能やその役割がますます重要になることを踏まえ、今回の会議では3つの視点を加えて議論を進めていただきたい。

第1は、上海

と東京それぞれが発展シナリオについてである。都市発展にはその後の成長をどう維持するかが大きな課題となる。一方、2050年にはその人々が約3500万人も減少していると推測され

将来予測を見てみよう。まず中国について、その国内総生産(GDP)は間違いなく今年中に日本のそれを超えると予測され5年以内にはアメリカのGDPを追い抜くとの見方もある。エネルギーや労働資本の投入によって伸ばしてきたGDPは、今や技術革新がそれを支えている。資金上昇によって都市を中心に内

お互いに学び合い 制御機能を高める

第2は、都市が抱える諸問題の制御についてである。多様な人材や文化が集まる都市には格差や混雑、疫病、犯罪、環境汚染といった諸問題も発生する。これらを制御するメカニズムの構築も都市が抱える大きな課

る日本。その減少が東京の発展シナリオに大きな影響を与えている。幸いにも日本には世界をリードする技術があり、それは都市発展の重要なカギを担っている。環境技術を見れば、1トンのGDPを生み出すための二酸化炭素(CO₂)排出量などは米国や欧州の半分にある。これから都市に求められるのは環境技術であることとは間違いなく、それを起

都市機能は拡大し 多くの人材を集積

第3の視点は、都市の機能についてである。上海と東京を面積や人口などの数字だけで比較するのではなく、都市機能が果たす役割やその影響範囲などに注目した。トロント大学のリチャード・ドラロダ教授は、衛星写真を用いた夜間の光源の強さと広がりから世界経済をけん引する地域を抽出し、これらを「メガリージョン」と名付けた。東京の広域圏がそれに当たり、上海を中心とした長江デルタも一つのメ

ガリージョンとなる。世界の様々なメガリージョンは中核となる大都市を中心に半径50〜200キロメートルの地域に広がり、そこに住む人口は世界の約4分の1、経済活動においては約3分の2を生み出し、イノベーションの約8割がここから発信されている。これからは、都市だけでなくメガリージョン全体の戦略をどのように描き、また再構築していくかが重要なポイントだろう。

【問題提起講演】

グローバル時代の 都市機能の強化

慶応義塾大学 教授
竹中 平蔵氏

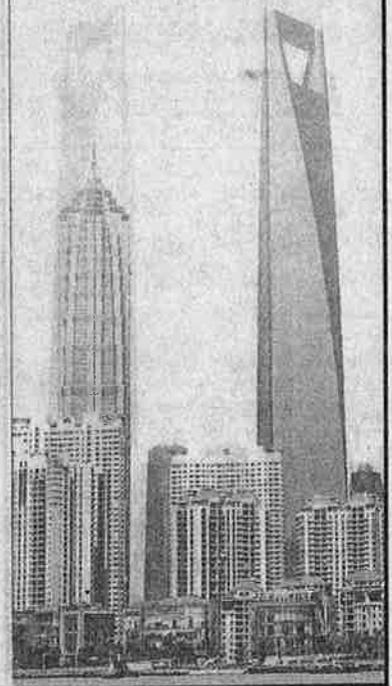


万博を機に考える
今後の都市像

上海・東京グローバル コンファレンス

Shanghai / Tokyo Global Conference

2010上海大会 広告特集



高密度な郊外都市の形成と 社会保障制度の公正さを

9年には1兆4900億9300万円となり、経済規模は50倍以上となった。一方で、93年以降の自然人口成長率はマイナスが続く。05年以降少子回復しているが、人口の22%が60歳以上と高齢化が進んでいる。

このような状況を踏まえ、上海が大都市として発展していくために乗り越えなければならない2つの課題に触れてみたい。

一つは、郊外の副都心化である。上海では、郊外都市二つの人口密度が非常に低い。雇用拡大やインフラ整備による発展も考えれば中心地域から複数の郊外都市を成長させていく必要がある。人口密度の高いコンパクトな郊外都市が形成できればインフラも整えやすくサービス施設なども充実する。また、環境面も考慮し、中心街と交通機関が連結したネットワークに属してみたい。

中国には「魚と熊の掌(たなごころ)は同時に得られない」というとわざとらしく、「効率」と「公正さ」のバランスを取るのには難しいのかもしれない。しかし、日本のようにそれを両立させた都市づくりを成功した国もある。大都市化へ向かって進もうとする上海が抱える課題は、世界の都市を学ぶことさらに進化した解決策を導き出せるはずだ。

トワーク構築が望まれる。もう一つは、上海に常住しながら農村戸籍を持つ人々や上海で農地を都市開発に提供した農民たちの処遇である。どちらも都市のコミュニティに浸透できず、その子どもたちは社会福祉や教育を受けられないでいる。今の中国の基本的な社会保障や社会保険制度については地域や階層によって不公平な制度だといえる。彼らが安心して暮らせるシステムができれば、いずれ大切な労働力となつて将来の都市や社会を支えることを忘れてはならない。

このように状況を踏まえ、上海が大都市として発展していくために乗り越えなければならない2つの課題に触れてみたい。

【特別講演②】

上海：調和と持続可能な発展の挑戦

上海社会科学院 常務副院長、経済研究所 所長、都市・地域研究センター 主任
左 学金氏



上海は改革開放後の30年で目覚ましい成長を遂げた。1978年に272億8100万円だった域内総生産(GDP)は200

【特別講演①】

東アジア共同体構築における 指導権問題

復旦大学 日本研究センター 主任
郭 定平氏



1997年の東アジア通貨危機を機に東アジア地域の各国は「運命共同体」という共通認識を持つようになった。そして、今日まで東アジア諸国は毎年のように新しい会議を開き、協力体制が強化される。分野も拡大してきた。

共同体構築を進めるために パラダイムチェンジが必要

在化している。東アジア地域内の経済的な格差が大きくなり、共同体の関係を調整することが難しくなってきた。日中韓3国がこの地域で重要な作用を発揮することで、東南アジア諸国連合(ASEAN)との関係もしつくりっていい。米国の態度と政策が共同体構築に重要な影響を与えるようになってきている。

そうした中、東アジア共同体構築における指導権争いとして「北東アジアと東南アジア」「日本と中国」「米国と東アジア」という構図が見えてくる。しかし、東アジア共同体が進展する気配はいっこうに見えない。

東アジア地域は今、新たな局面を迎えている。新たな経済分業モデルが動き始め、地域内貿易は拡大を続けている。通貨危機の危機と気候変動もこの地域の協力体制を強化している。こういった流れの中で、指導権に関する新たなパラダイムを構築することができれば、東アジア地域は理想的な共同体を形成するために大きな歩を踏み出せるに違いない。

東アジア地域は今、新たな局面を迎えている。新たな経済分業モデルが動き始め、地域内貿易は拡大を続けている。通貨危機の危機と気候変動もこの地域の協力体制を強化している。こういった流れの中で、指導権に関する新たなパラダイムを構築することができれば、東アジア地域は理想的な共同体を形成するために大きな歩を踏み出せるに違いない。

東アジア共同体のゆくえ

似通うライバル都市として お互いの利点から学び合う

森記念財団が行っている世界都市ランキングに基づくと都市総合力調査「20



明治大学 専門職大学院院長、森記念財団 理事
市川 宏雄氏

09年版グローバルワシントン・インデックス」から上海と東京を比較してみたい。都市総合力のランキングは東京が4位、上海が21位という結果で、東京の上にはパリ、ロンドン、ニューヨークが存在する。

上海と東京の両都市は似通う点が多い。例えば上海と東京の都心部を比較したところ、1000㎡を超える高層ビルの数は上海3

93棟、東京349棟とほぼ五角。世界のトップ500大学は、上海が3校、東京が9校。美術館および博物館の数は、上海が81館、東京が78館。凶悪犯罪はともに少なく安全な都市とされている。

上海が突出している点

は域内総生産の成長率は東京の2%に対し上海は12%。約6倍の差となっている。上海の都市総合力は、08年時点で25位だったが、10年は15位あ

都市開発においては、素早い政策判断のもとに構築したインフラ整備や外資の積極的な融資、そして海外の文化的積極的な吸収などにより急激な発展をみせている。ただ、環境と研究開発分野が弱く、浮遊粒子状物質(SPM)が東京の倍、二酸化硫黄(SO₂)は4倍以上の排出量が確認されている。また、研究者の数は東京の3分の1、研究開発費にも大きな開きが見られる。

一方、東京は3500万人を抱える先進国最大の巨大都市圏である。例えば、地下鉄は年間28億人の乗客を運ぶ。ちなみにニューヨークは14億人、ロンドンも東京の3分の1程度だ。この巨大都市圏が維持できるのは、日本が誇る高度なテクノロジーを駆使した都市運営システムが構築され、市民の高い参画意識の下でしっかりと機能しているからである。

東アジア最大のライバルになる上海と東京は、お互いの成功や失敗経験から刺激を受け合うことで、競い合いながら相互に発展していくことができるだろう。

【基調講演①】

東アジアにおける青年の
地区別共同認識とマスコミ効果

復旦大学新聞学院 副学長、副教授
李 双龍氏



若者たちの共同体への意識
積極的交流で和して同せず

まず全体像を言えば、若者たちはアジアに対するイメージを「古い歴史と発展の遅れ」から「積極的発展へと転換していることが大きな特徴として挙げられる。経済発展と共に独立心や自主性が強まり、独自文化も発展する。マスコミ効果については、欧米の映像作品と多く接触していることが一つの特徴。今や欧米文化はアジア地域の次に彼らの意識に大きな影響を及ぼしているといえる。

東アジア地域の「共同体」への意識については、中国は「穏健」、韓国は「積極的」、日本は「冷淡」という現状であった。おそらくそれぞれの国の社会指向が影響を及ぼしている。日本は経済や社会文化が安定状態にあり、戦後の日本は社会全体が平和な暮らしを望んでいる。また、急速な経済発展を続ける韓国は伝

統文化の追求や発信をして経済だけでなく政治的な地位の獲得も狙おうという勢いがある。そして、伝統文化を継承しようという意識の強い中国の若者たちだが、その8割が海外渡航を経験していない。東アジアの若者たちは儒教の教えを守るように、アジア間の交流について「積極的に交流し和して同せず」という共通意識を持っている。経済のグローバル化や東アジア地域の大きな変革を経験する中で、心の底にある東アジアの伝統的な価値観の影響を依然と強く受けているようだ。

こういって東アジア地域で長い歴史を持つ文化分野では多くの共通点があり、政治的なイデオロギーの制約が取り除かれれば、東アジア地域としてのアイデンティティが形成される可能性は高い。

【基調講演②】

中国と日本の成長戦略
～上海万博を通して～

作家、上海万博日本産業館総合プロデューサー
堺屋 太一氏



万博を機に工業社会から
知価社会へ変革する中国

国博覧会を開催することこれをトラブルなく運行できるシステムは世界の最先端であることは間違いない。

一つの事業の生産工程は、ビジネスモデル、技術開発、製品設計、部品生産工程、アセンブリング、ロジスティクス、マーケティング、金融の8つに分類できるが、中国はこれまで、第4工程の部品生産、アセンブリーで急激な経済成長を遂げた。しかし、経済成長と共にその役割は前工程へと後移していく。いわゆる「知価革命」(知恵の値打ちの革命)が起きるのだ。この上海万国博覧会がその知価革命の引き金となるかもしれない。

万博観覧会とは何千万の人が利用する最新技術の実用実験の場であるが、今回の万博で世界を驚かせたのは、中国館の高度な映像技術と会場移動に利用されている電気自動車システムだ。全会場にガソリン自動車はまったくなく、これこそが重要なポイントだ。そしてこの変革は日本にとっても大きなチャンスである。万博を機に、中国の世界観、思想、中国の未来の消費観を認識し、そこに存在するビジネスチャンスを見逃すことなく、今後の日中関係において日本が知価社会をどうやっつりしていか

東アジアのアイデンティティとは

東アジア共同体構想がさまざまな角度から模索される中、経済・貿易分野では協力体制が進むもの、東アジア地域としてのアイデンティティが生まれるまでには至っていない。そこで、東アジアの国・地域の大学生3,264人の意識調査を行い、文化意識の検証やメディアの影響などを分析した。

2010上海大会開催概要

開催日時:2010年5月25日(火)
会場:上海環球金融中心 4階 SWFCフォーラム
主催:日本経済新聞社、日本経済研究センター
復旦大学日本研究センター、森ビル
後援:森記念財団、共同通信社、NHKインターナショナル
協賛:旭化成、アメリカン・エクスプレス、タニタ、ヤマト運輸
特別協力:日本航空



【主催者あいさつ】 郭 定平氏 (復旦大学日本研究センター 主任)
【来賓ごあいさつ】 奥田 碩氏 (トヨタ自動車 相談役)
【問題提起講演】 竹中平蔵氏 (慶応義塾大学 教授)

【基調講演①】
「東アジアにおける青年の地区別共同認識とマスコミ効果」
李 双龍氏 (復旦大学新聞学院 副学長、副教授)

【基調講演②】
「中国と日本の成長戦略～上海万博を通して～」
堺屋 太一氏 (作家、上海万博日本産業館 総合プロデューサー)

【特別講演①】
「東アジア共同体構築における指導権問題」
郭 定平氏 (復旦大学 日本研究センター 主任)

【特別講演②】
「上海:調和と持続可能な発展の挑戦」
左 学金氏 (上海社会科学院 常務副院長、経済研究所 所長、都市・地域研究センター 主任)

【特別講演③】
「都市総合力で競い合う上海と東京」
市川宏雄氏 (明治大学 専門職大学院院長、森記念財団 理事)

【パネルディスカッション】
「アジア型巨大都市の未来を展望する～上海と東京～」
○パネリスト (氏名50音順)

- 市川宏雄氏 (明治大学 専門職大学院院長、森記念財団 理事)
- 周 牧之氏 (東京経済大学 教授)
- 宮口丈人氏 (みずほコーポレート銀行 執行役員、瑞穂実業銀行(中国)有限公司 副理事長・行長)
- 森 稔氏 (森ビル 社長)
- モデレーター
竹中平蔵氏 (慶応義塾大学 教授)

万博を機に考える
今後の都市像

上海・東京グローバル
コンファレンス

Shanghai / Tokyo Global Conference

2010上海大会 広告特集



アジア型巨大都市の未来を展望する ～上海と東京～

「アジア型巨大都市」の未来

- ハネリス ト**
市川 宏雄氏 (明治大学 専門職大学院 院長 森記念財団 理事)
- 周 牧之氏** (東京経済大学 教授)
- 宮口 丈人氏** (みずほコーポレート銀行 執行役員 瑞穂商業銀行(中国) 有限公司 副董事長・行長)
- 森 稔氏** (総務社長)
- モテレータ**
- 竹中 平蔵氏** (慶応義塾大学 教授)

「アジア型巨大都市」の理想像とは

竹中 ます、これから注目すべきアジア型巨大都市という観点から、東京・上海それぞれに対する問題提起を伺いたい。



竹中氏



森氏

周 10年ほど前に上海で、日中両国の政府機関が共同で、中国の都市化政策に関する調査報告を兼ねたシンポジウムを開催した。私は基調報告を行い、その中でメガロポリスを中心とする都市化政策を進める「大規模な高密度都市空間を構築する」「地方や海外からの人口を受け入れられる制度改革を行う」を提言した。この10年でメガロポリス政策については成果があるものの、そのほかは課題として残っている。

宮口 上海は1人当たりの域内総生産が2008年で1万を超え、成長が著しいが、昨年、国際金融センター化が打ち出され、国際都市としてさらに発展しようとしている。問題は金融自由化のスピード。日本は為替、資本、金利の自由化におよそ40年を費やした。来年から始

うこと、金融センターをはじめとするアジアのハブ機能へと成長しなければならぬという使命を持つておられる。2大メガロポリス政策の最大の課題は、人口移動をどのようかに制御するかということである。

周 共通点として注目すべきは、急速に構築された巨大な集積であるという点から何かヒントは得られないか。

周 共通点として注目すべきは、急速に構築された巨大な集積であるという点から何かヒントは得られないか。

周 共通点として注目すべきは、急速に構築された巨大な集積であるという点から何かヒントは得られないか。

周 10年ほど前に上海で、日中両国の政府機関が共同で、中国の都市化政策に関する調査報告を兼ねたシンポジウムを開催した。私は基調報告を行い、その中でメガロポリスを中心とする都市化政策を進める「大規模な高密度都市空間を構築する」「地方や海外からの人口を受け入れられる制度改革を行う」を提言した。この10年でメガロポリス政策については成果があるものの、そのほかは課題として残っている。



森氏



森氏

都市間の競争と協力で巨大都市化を急速に

空間の活用と技術がアジア型巨大都市の特長

高密度都市社会の構築と人口移動政策の改革

上海の金融自由化とその発展スピードに注目

アジアの高密度都市に好環境の都市開発を



竹中氏



周氏



宮口氏

竹中 最後に、両都市の未来を予測していただきたい。

周 10年ほど前に上海で、日中両国の政府機関が共同で、中国の都市化政策に関する調査報告を兼ねたシンポジウムを開催した。私は基調報告を行い、その中でメガロポリスを中心とする都市化政策を進める「大規模な高密度都市空間を構築する」「地方や海外からの人口を受け入れられる制度改革を行う」を提言した。この10年でメガロポリス政策については成果があるものの、そのほかは課題として残っている。

万博を機に考える
今後の都市像

上海・東京グローバル コンファレンス

Shanghai / Tokyo Global Conference

2010上海大会 広告特集

「国際宅急便」がお得にリニューアル
上海へ書類が950円で送れる

国際宅急便

ヤマト運輸は6月に日本発海外向けの「国際宅急便」をリニューアルした。「リーズナブルな価格設定」「分かりやすい料金体系」「世界200を超える国・地域に対応」へとリニューアルすることで、今まで以上に簡単・便利に利用できるサービスとなった。例えば、日本から上海へ書類パックB4サイズ(1kg)を送付した場合、1600円だった料金は新料金では950円に。国内宅急便と同じ6サイズ+書類パックサイズに分類された料金体系となっている。

同社は2009年に台湾、今年1月にシンガポールと上海において宅急便事業を開始している。電話1本で1個から集荷、翌日配達、時間帯お届け、クール宅急便など、日本国内と同様のサービスを提供している。



お問い合わせ

0120-5931-69 (受付時間9:00~20:00)
http://www.kuronekoyamato.co.jp/